

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2775502194		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	こうせい苑グループホーム		
所在地	大阪府八尾市北木の本5-6-1		
自己評価作成日	平成 29年 8月 15日	評価結果市町村受理日	平成 29年 10月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokonsaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=2775502194-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 9月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が笑顔で表情が穏やかですと外部訪問者からよく言って頂きます。ご家族様も協力的で色々な行事にも欠席することなく積極的に参加して下さいます。ご利用者様・ご家族様の生活を守る為、母体の医療法人幸晴会と連携を密に取り安心して頂ける環境にあります。
ご利用者様の重度化に伴い以前のように出来ない部分もありますが、ウッドデッキにて手作りの桜の木を作りお花見をしたり、2階3階の皆様がいつまでも笑顔で交流出来るよう一緒に昼食を摂ったりもしています。又、ご利用者様に質の高いサービスを提供出来るよう、職員は日々研鑽・勉強会にて専門性の向上に努めています。こうせい苑の理念を念頭に置き、丁寧な言葉使いやご利用者様を尊重し寄り添う介護を実践しましょうを合言葉に、皆で声を掛け合い日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に貢献している医療法人を母体とした開設13年目のグループホームです。法人開設者である前理事長の「在宅の利用者の24時間を何とかフォロー出来ないか」という理想を職員の課題に掲げて「医療から介護へ」「施設から在宅へ」と幹部・職員一丸となって地域の様々なニーズに応えるような事業展開を進めてきています。母体の医療法人との連携は、利用者・家族の大きな信頼と安心に繋がっています。ホームは地域ボランティア、家族の協力で多くの行事を実施していますが、利用者は「忙しくて病気をしている暇がない」「食事が美味しい」「ちぎり絵はまかせておいて」と笑顔で楽しい時間を過ごしています。ホーム長は「職員が『明るくチームワークがよくて働きやすく介護は大変だけどここなら頑張れる』と思えるような風通しのよい職場づくり」を心がけています。職員は「笑顔と安心」を大切にしたい支援に努め、幹部は「職員の努力のたまものです」と誇らしげにしながらも真摯に事業に向き合っているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目につく場所に掲示してある法人としての理念、グループホームとしての理念を意識し、入居者様が安心して生活していけるよう心掛けている。	ホーム長や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。法人理念の基に「目配り・気配り・心配りの『個別・自立支援』、優しく・親切・丁寧で『その人らしさを尊重』、地域と和合して『安全・安心』」をホーム理念と明記しています。法人理念は玄関入口や各ユニット事務所に掲示しています。ミーティングや研修時に理念の確認を行う等、職員間で共有してサービスの実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近くのスーパーやコンビニ等への買い物は状況の変化により以前ほど行けなくなっているが、地域の保育園との交流や毎月複数のボランティアの来苑、ふれあい祭り等への参加により定期的に交流出来ている。	ホーム理念である「地域と和合して『安全・安心』」を基に、四季を感じられるような行事や、地域の保育園児の訪問、大正琴・コーラス・アニマルセラピー等複数の地域ボランティアとの交流を積極的に取り入れています。また、ホームの見学や家族介護教室の開催を通じて、ホームの役割や認知症についての講義を行い、情報の発信に努めています。地域のコミュニティセンターで開催される「グループホーム展」に、利用者の作品を出品しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で研修や勉強会の内容の説明をさせて頂き、家族介護教室で認知症についての講義、質疑応答など行ない発信している。中学生の職業体験の受け入れも行ない、理解や体験をしてもらっている。ボランティアの皆様にはコミュニケーションを通して理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際取り組んでいる事や行事報告等内容を伝え、皆様からの意見を聞く事で今後の取り組みに繋げている。会議録は回覧し、職員全員が理解できるようにしている。	ホームでは、運営推進会議規則を作成し、2ヶ月に1回開催しています。参加者は、利用者・利用者家族・高齢クラブ代表・高齢者安心センター職員・ホーム職員です。会議では、サービスや行事の実施状況等の報告を詳細に行い、参加者との質疑応答及び意見交換を通じてサービスの質の向上・確保に活かしています。今後は、非常災害時における地域との協力体制について話し合いを行う予定です。運営推進会議の議事録は、職員に回覧し内容の共有化を図り、また家族に送付しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、事業所の内状を積極的に伝えご理解頂けるようにしている。事業者連絡協議会や施設サービス事業者部会に参加し情報交換と連携を図っています。	市の担当課とはいつでも相談できる関係にあります。高齢者安心センター職員とは、運営推進会議において報告、相談をして、情報提供や助言を得ています。法人本部長・ホーム長は、市主催の事業者連絡協議会や施設サービス事業者部会等に参加して情報交換等を行い、連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行ない、内容を正しく理解し、介護の仕方を職員同士で常に話し合い拘束の無い介護に努めている。 玄関やテラスはオープンにし、エレベーターも時間を決めて解除している。	職員は、法人内部研修や伝達会議で身体拘束廃止について学びながら、身体拘束を行わないケアを実践しています。ホームでは、職員による十分な見守りが可能な昼間の時間帯はエレベーターの暗証番号を解除し、施錠しないケアにも取り組んでいます。外出希望のある利用者については、職員の見守りと付き添いで対応しています。2階にはリビングや廊下から続いているテラスがあり、開放感いっぱいの広いウッドデッキとなっています。椅子やテーブル、季節の花の鉢植えを置き、利用者と職員は自由に出入りをして洗濯物干しや外気浴、植物観賞、お茶や行事、家族との団らんの場として楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で勉強する機会を設け、意識し、学んだ事をその都度思い、感情的な行為をしない様にしている。特に言葉での虐待には注意している。管理者は常々職員のストレスや気持ちを聞き虐待に繋がらない様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で勉強はしているが、実際に関わったことが無く、今後も研鑽していく必要性を感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な時間を取り、説明や話し合いを行っている。諸々改定がある場合や利用料に変化がある時なども丁寧な説明に努め、ご同意頂くようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し面会簿にもご意見欄を作っている。家族様とは直接意見や苦情を言ってもらえる関係性が出来ている。入居者から食事の事で苦情が出た時も事業所全体で改善の方向に反映する事が出来た。	ホームでは、自治組織「白百合町会」があり、利用者一人ひとりの意見や思いを伝えられる環境を整えています。ホームの玄関には、意見箱や面会箱を設置しています。面会簿には意見・要望を記入する欄を設けており、寄せられた意見や要望等は、全体会議等で速やかに話し合い、反映させています。職員は、日頃から些細なことでも利用者や家族に相談や報告をしています。家族交流会や運営推進会議では、意見や要望等を出せるよう積極的に働きかける工夫をし、相互に気兼ねなく話せる関係性の構築に努めています。また、ホームでの暮らしぶりが伝わる写真入りの季刊誌や、利用者一人ひとりの近況報告についての手紙を定期的に発行し、より信頼関係が深まるよう取り組んでいます。食事の面で利用者からの要望があり、法人を含めた検討を行い、改善に繋がった事例があります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に利用者様の立場で考え、意見や要望などいつでも発言出来る関係作りを日頃より行っている。管理者は常時現場の意見を聞き、職員が働きやすくなるよう提案をしている。各事業所では対応が違っていた事も訴え改善に向かっている。	ホーム長は、月に1回全体会議を開催し、職員が意見や要望を出せるようにしています。会議では、月間行事や業務について法人や各部会からの報告を行い、外部研修に参加した職員による伝達研修も実施するなどしています。またワーカー会議では、昼食時間を変更することで職員の休憩時間が取れるように工夫をするなど、職員間には自由に意見を表出できる雰囲気があります。ホーム長は、職員が意見を表出しやすいように心がけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より良い職場の環境は利用者様にも通じる事。運営規定など随時見直し働きやすい環境の整備に努めてくれている。 年2回のセルフチェックシートによる自己評価後、管理者が一人ひとり面談し、向上心を持って働けるようコミュニケーションを取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人紹介による割引制度や資格取得促進制度もあり働きながらのトレーニングが出来る環境にある。 又、資格取得の為に対策講座も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じ外部同業者との繋がりをもちお互いの意見交換が来ている。 八尾市介護保険事業所連絡協議会、大阪認知症グループホーム協議会に加入し研修会・勉強会・会議等で意見交換し、サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、本人像や生活歴の情報を集め、入居されてからの不安や行動をしっかりと記録し職員同士で共有出来るようにし、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大切な家族様をどんな思いで入居してもらう事になったか、又家族関係にも配慮出来るよう小さな事でも話せる関係作りに務めている。家族様にも安心して頂ける計画を作り利用者様を共に支える関係を築きたいと思っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にどういう援助が今必要かを職員同士でこまめに話し合い、家族様とも相談し、実行してどうであったかを確認し合いご本人家族様が安心出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生を先に歩いてこられた先輩として尊敬の思いで接し、必要なところは援助させて頂くが、ご本人が出来る事を探し、個性を引き出す事に努め、共に助け合い、喜び、悲しむ関係でありたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族との会話を大切に頂き、居室で過ごしたり食事介助をしたりされているご家族様もおられます。家族様にしか出来ない本人との絆を何より大切にし、家族様とご本人の関わりのサポートをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから出掛けていく事は身体的にも難しくなっておられる方が多いが、親戚や友人様にはいつでも来苑して頂けるよう対応している。ご近所だった方が面会に来られたりもし、先方も遠方であるのが難しい時は電話で話して頂く等対応している。	退居された利用者の家族から職員一人ひとりに暑中見舞いが届いたり、家庭菜園でカボチャに「ありがとう こうせい苑」と文字を刻んで育て、大きくなったものを利用者、職員に届けに来られたりすることもあります。職員は、馴染みの関係が途切れないような支援を大切にしています。家族の協力で墓参りや喫茶店に出かける利用者もいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や認知症の進行により関わりが難しい事もあるが、一人ひとりの性格や状態を考え席の配置など気を配り、入居者同士会話や関わりが出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した家族様でも以前と同じようにボランティアに来て下さる方もおられる。 逝去後しばらく来苑して居室で過ごされる家族様がおられ、思い出話や気持ちを語り合いました。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を表現出来る方にはお聞きし、意向を伝えるのが困難な方も笑顔で暮らして頂けるよう家族様からの情報なども参考にし、表情の変化など見逃さず読み取るよう努めている。	計画作成担当者は、利用者・家族から入居時に一人ひとりの思い、意向を把握し介護計画に活かしています。入居後は、暮らしの状況と支援経過を丁寧に記録することで、利用者一人ひとりの思いを汲み取るようにしています。ホーム長・職員は、利用者の思いや意向に更に沿えるよう、職員が気づいた利用者の声や表情の変化から読み取った希望や思いを「モニタリング・カンファレンス」ファイルに丁寧に記載し把握しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取った生活歴や、日々の生活の中でのお話からも把握するよう努めている。分からない時は以前の生活場所に聞き取りなど行う時もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの職員の目線で気付いた事を記録共有し、職員全員で把握するように努め、その方の現状をすぐに反映出来るようにしたいと思っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングは職員全員で気付いた事を記入し担当者がまとめている。4カ月に一度の定期的カンファレンス以外にも必要に応じカンファを行い、ご家族様や看護師に意見を求める時もあります。	介護計画は3～4ヶ月に1回の見直しをしています。モニタリングは毎月行っています。モニタリングチェック表、介護記録を丁寧に記載することで利用者の思いや要望を汲み取っています。モニタリングは毎月、利用者一人ひとりに対して、職員全員が意見を記入しています。それに沿って計画作成担当者が介護計画に反映させています。変化のあった時、統一したケアが必要な時には、家族や看護師の意見を求めて都度計画の見直しを行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きの記録に努めているが、日々の介護、入居者対応、業務等に追われゆっくり詳しく記録出来ていないのが実情です。申し送りなど口頭でも共有し即座に見直しに活かすよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じてエアーマットのレンタル等対応している。又、常勤は喀痰吸引の資格を取り必要に応じて支援している。その方を支える為に必要な物であれば対応する努力をしたいと思っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアに多くの方が来苑して下さり、笑顔多く楽しむ時間が持っている。保育園児の来苑時はひ孫を気遣うような素振りを見せたり、訪問美容の方との会話を楽しまれている方もおられます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認をし、ご本人や家族様が望まれる対応をしている。又、専門外の受診が必要となった場合は家族様と行かれたり、訪問診療も受けられるよう支援しています。	ホームでは、利用者がかかりつけの医師や家族の希望する医療機関で受診できるよう支援しています。夜間や緊急時への24時間オンコール体制が整っており、利用者・家族、職員の安心に繋がっています。月曜日から日曜日まで毎日主治医の往診と看護師の訪問があり、管理者は主治医との関係を密にし、指示を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気付いた事はその都度訪問看護師に報告相談している。特変や急変があった場合は電話でもすぐに報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の相談員・看護師・医師との情報交換に努め、退院後スムーズに苑に戻れるよう援助している。 リハビリテーション科の理学療法士とのカンファレンスに家族様と共に参加させて頂き、現状把握に努め家族様にも安心して頂けるように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「緊急時及び重度化した場合における対応にかかる指針」を定めている。入居時には「本人による同意または家族の推定する本人の意思に関する確認書」を説明し、入居時の気持ちをお聞きし、状態が変わられてきた時には再度確認するようにしている。終末期が近づいてきた時には速やかに関係者で相談し、苑として出来得る事を説明共有し、本人家族様にとって一番良い方法が取れるよう支援している。	入居時に利用者・家族へ「緊急時及び重度化した場合における対応にかかる指針」を説明し、同意書を交わしています。利用者が重度になった場合、再度意向を確認し、医師や看護師と連携を取りながら希望に沿った支援を行っています。ホームでは多くの職員が喀痰吸引資格を持っています。母体医療法人との24時間オンコール体制が整っていることは利用者・家族、職員の安心に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や定期的な救命講習で勉強し、又看護師による看取りの講習を受ける等何かあった時に実践できるよう努めている。日常的に不安な事があれば何でも看護師に質問している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災に関する内部研修と、消防署の協力を得ての様々な場面を想定した利用者を交えての避難訓練を行っている。定期的な避難経路確認も行い、食料や飲料水も十分ではないが備蓄している。	ホームでは、防災対策マニュアル・風水害マニュアルを作成しています。災害時における避難誘導についての文書を掲示しています。年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署の指導を受けています。また、2ヶ月ごとに避難経路の確認を実施しています。運営推進会議にて、火災避難訓練の実施報告をしています。備蓄については、水・食料品等を保管し、期限は事務所に掲示して管理しています。平成29年3月に八尾市長より「火災予防の重要性を深く認識され積極的に防火対象物の安全管理と職場の防災意識に努められた功績は誠に顕著である」と表彰状・記念品の授与がありました。	
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けなど他者に聞こえないよう近くで小声で行なったり他の場所へ呼び行っている。おむつ交換や更衣等はもちろんのこと個室でドアを閉めて行う。業務の忙しさの中や認知症という中での利用者の行動に、感情のまま対応していないか自分を振り返り、職員同士注意し合える環境でありたいと思っている。	職員は法人研修や施設内勉強会において「法令遵守・倫理」「高齢者虐待防止」「接遇」等に関する研修を受け、意識の向上に努めています。職員の言葉かけは優しく丁寧で、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないよう配慮した態度で支援をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	ゆったりとした気持ちで寄り添い関わる積み重ねが本人の思いを読み取れる事になると思う。行動や表情・言葉などから心の思いを汲み取り、又、問いかける声掛けを行い、納得のいく方向へ向かうよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々々の意向に添いそれぞれのペースで生活して頂いているが、臀部の状態や職員の業務の流れで、決まった時間に臥床したり離床したりして頂いている入居者の方もおられる。全体の一日の流れの中で思いを汲み取りストレスにならないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で更衣出来る方は自由に身だしなみ等おしゃれを楽しまれていると思います。介助が必要な方も清潔な衣類の支援を心掛け、訪問美容を利用しカット・顔剃り等で身だしなみにも心掛けている。本人が望まれば毛染め・パーマなどもしてもらえる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セントラルキッチン方式に変わり、又入居者様の認知症の重度化もあり食事の盛付は難しいが、食前に机を拭いたり、配膳・下膳や食器拭き等職員と一緒にに行っている。盛り付けは美しく美味しく見えるよう、又、一緒に会話しながら楽しく食事出来るよう心掛けている。	食事は、法人内の給食事業部から3食届きます。おやつについては、利用者と職員と一緒に買い物へ行きます。職員は、利用者の体調やタイミングを見計らい、配膳や下膳等の役割を協力しながら、準備から片付けまでを利用者と一緒に行っています。ホームのテラスでバーベキュー、家族交流会では家族と一緒におやつ作り、敬老祝賀会では松花堂弁当、家族と一緒に外食等、利用者の楽しみと喜びにつながっています。食事の風景は、利用者と職員がテーブルを囲んで同じ食事を摂り、利用者同士また利用者と職員が会話を楽しんでいます。職員は、利用者が安全で安心して食事がより楽しみなものになるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた食事形態や量、時には器を変えたりと工夫している。水分の摂りにくい方には好みのジュースなどを提供し、無理なく飲んで頂けるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	以前は自分の居室での歯磨きの方もおられたが、しっかりと口腔ケアをする為にホールの洗面で全員声掛けしながら行ってもらい、介助の方もその方に応じた方法で口腔ケアを行っています。歯科医師に往診にて口腔状態を診てもらっている入居者もおられます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	徐々にリハビリパンツやパットを使用する方が多くなってきましたが、その方の排泄リズムを把握し、小さな動きや言葉、時間を見てトイレで排泄出来るよう支援しています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、様子を観察しながら支援を行っています。原則トイレで排泄ができることを意識しながら支援しています。オムツやパッド使用の利用者には清潔保持のため朝晩に洗浄の支援も行っています。新人研修では「排泄支援」、一般職員には「便秘解消の秘訣」「介護予防」などの研修を行い、スキルアップを図っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を職員全員が把握している。おやつにヨーグルトやフルーツを多く取り、水分摂取量にも気を付けている。本人のいきむ力や運動量が減り便秘の助けも借りながら、スムーズなご本人に負担のない排便に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の重度化の為一日の入浴者の人数が限られてしまっていますが、夏場はシャワー浴で出来るだけ入って頂けるようにしている。時間帯も決まっていますが、今日お風呂入りたいと言われる方がおられたら優先的に入浴して頂いています。	基本は2日～3日に1回の入浴を実施しています。重度化によって入浴が難しい場合は足浴、清拭、シャワー浴等でできるだけ気持ちよく過ごしていただける工夫をしています。入浴を好まない利用者には時間をかけてさりげなく根気よく声かけのタイミングを計っています。季節のゆず湯やしょうぶ湯で入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人それぞれに自由に居室で横になる方もいれば、皆と一緒に居る事が安心してホールでうとうとする方もおられます。一人ひとりの生活習慣や体力・臀部の状態により、身体への負担を減らす為臥床時間を考え休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在薬は薬局で管理してもらっているが、薬リストを常に見える所に保管し、職員も理解し、薬剤師へ情報提供も行っている。誤薬を防ぐ為の工夫も行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴を家族様より情報を受けながら、又会話の中より本人の興味や好きな物を引き出し楽しみを味わってもらったり気分転換出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近外出が難しくなっている入居者様が増えているが、家族様が一緒に出掛けて下さる方もおられます。確実に歩ける方が一人になり苑の行事も車窓からの花見や、ベランダでの外気を感じる行事になっている。	ホームでは、現在外出支援の機会が減ってきてはいるものの、その分利用者がホーム内に居ても「四季」を感じてもらえるよう、アイデアを出し合い、工夫を行う等積極的に取り組んでいます。また、家族の協力で一緒に外出をする利用者もいます。花見の時期にはドライブをしながら桜を鑑賞しています。参加できない利用者には、リビング中央に桜の木を創作し、ガーデンテラスからの景色で五感を刺激する等、さまざまな取り組みを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持する事で安心を得られる方は1万円を常に腰に巻いておられ、紛失の無いよう支援し、お金が無い訴えには統一した対応を決め安心出来るようにしている。ほとんどの方はお金の所持には拘っておられない。必要な物がある時は立て替えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自由に手紙を書いたり電話が出来る状況です。年賀状が家族様から届く方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるよう壁の飾りつけや玄関の置物を季節ごとに変えている。入居者様の作品を飾ったり、家族様と一緒に写った写真を壁に貼ったりしていつも安心して生活して頂けるようにしている。又、トイレなどは分かりやすい表示にしている。	玄関を入るとリビング、ダイニングには季節を感じられる飾りや外出時の写真等が飾られ、温かみのある空間づくりがなされています。リビングは明るく、適温に保たれています。リビングや壁には利用者と職員のちぎり絵・手芸作品や行事の写真などを飾って、季節感やぬくもりを演出しています。食堂テーブルやソファークーナーではテレビを見たり、音楽を聞いたり、塗り絵やパズルをしたり利用者はそれぞれにゆったりと過ごしています。2階には広いテラスがあり、自然を感じられる工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置はその都度入居者様の状況によって考え変更している。ソファやリクライニングチェアを置き自由に移動し座って頂ける空間作りをしている。自席でなければ落ち着かない方や席を変える事で落ち着ける方もおられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好きな犬のぬいぐるみを持ち込まれたり、仏壇を置いて手を合わせる習慣をいつまでもして頂く等している。家族様との写真を壁に貼らせてもらい、常に寂しくないよう落ち着いて穏やかに過ごして頂けるよう心配りしている。	居室入口には家族と利用者が作ったネームプレートを飾るなどして自室がわかるようになっています。ベッド、エアコン、洗面台、クローゼット、カーテンはホームが用意しています。入居時には、タンス、テレビ、時計、仏壇、家族の写真、鏡台、人形等それぞれの思い出の物を持ち込んで、自分で好きなように配置しています。利用者・職員手作りの作品や絵等を飾ったりして職員は居心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が自由にゆったりと動けるスペース作りをし、その方に合った補助的な椅子を居室に置いたりもし、さりげない見守りを心掛け、安全に動けるよう支援している。		